

2020 年度第 6 回公立大学法人公立諏訪東京理科大学理事会議事録

日 時 2020 年 12 月 23 日 (水) 10:30~11:40

場 所 遠隔会議システムにて実施

出席者 唐澤理事長、小越副理事長、大島理事、牛山理事、柿澤理事、宮坂理事、河嶋監事、柴田監事、(濱財務課長、加藤教務・学生支援課長、堀向総務課係長)

欠席者 船木理事

[配付資料]

- 1 2021 年度予算編成方針と 2021 年度予算 (案) について (資料 1)
- 2 本法人の DX 推進による本学ブランドの向上の取組みについて (資料 2)
- 3 2020 年度資産運用について (資料 3)
- 4 2021 年度学校推薦型選抜実施結果 (資料 4)
- 5 「公立諏訪理大生応援プロジェクト」大学生 1,200 名の消費活動を諏訪地域に
(資料 5)

[議 事]

1 議題

議事に先立ち唐澤理事長から、本学での新型コロナウイルス感染症対策について、来年度の授業は新生を中心に 8 割を対面で行う予定であること、3 月に実施する学位記授与式については卒業生のみでの参加とすること等報告があった。

また、年始以降の授業については遠隔授業とすること、課外活動については当面自粛とすること等の対応を取ることが報告された。

(1) 2021 年度予算 (案) について

濱財務課長から資料 1 をもとに、標記の件について、9 月の理事会で承認された基本方針をもとに予算編成を行ったこと、教員補充に伴う人件費、入試における新型コロナウイルス感染対策費、DX 推進のための費用、敷地整備費用、スワリカブランド創造事業関係研究経費等を新たに計上したこと、前年比約 7 億 7 千万円の減となっているがこれは 2020 年度に 9 号館の建設経費が計上されていたためであること等説明があった。

これに対して柿澤理事から、敷地整備費用の計上内容について質問があり、新学科設置に関するものだけでなく、新型コロナウイルス感染症に対応した教室の設置増等も含めて検討を行うための準備予算であること等説明があった。

審議の結果、原案どおり承認され、予算案を事務組合に提示し、2 月開催の理事会で最終的に承認をいただくよう準備を進めることとなった。

(2) DX 推進による大学ブランドの向上について

加藤教務・学生支援課長から資料 2 をもとに、工学系の大学である本学がデジタルトランスフォーメーション (DX) を進め本学のブランド力向上を目指すこと、取り組み内容として教育推進のための通信環境整備、研究推進ための環境整備、学生手続の電子化等の学生サービス向上、業務の電子化による法人体制の整備強化を検討すること、学内にワーキンググループを立ち上げ検討を行うこと等説明があり、審議の結果、原案について承認された。

なお、これに関連して柴田監事から推進のための人材や組織はどのように考えているのかとの質問があり、新たに設置される総合情報センターがベースの部分を整え、DX については全学的に総合情報センターと連携しながら取り組んでいく方針であるとの説明があった。

(3) 2020 年度積立金及び目的積立金の定期預金預け入れについて

濱財務課長から標記の件について、運用対象額から通常現預金予備額を差し引いた 2 億円を運用すること、地元金融機関に定期預金の利率等を確認し、最も利率の高かった地元金融機関に期間は 3 年として全額を預入すること等報告があった。

(4) 2021 年推薦入試結果について

加藤教務・学生支援課長から資料 4 をもとに、11 月 28 日、29 日に行われた学校推薦型選抜について、198 名の志願があり 116 名が合格となったこと、地域枠①については合格者が入学定員を下回るが他枠との得点等を勘案し判断したこと等報告があった。

(5) 「公立諏訪理大生応援プロジェクト」の取組みについて

加藤教務・学生支援課長から資料 5 をもとに、学生が地域で消費活動を行うことで地域の活性化を図るとともに、学生が地域を知るきっかけを作ることを目的として標記プロジェクトを立ち上げたこと、実施に当たっては茅野商工会議所の賛同を得たこと、学生は協力店舗で学生証を提示することで特典を受けられること等報告があった。

以上